



参考情報 號外

南方に  
作業隊  
残さる  
員の叫び

昭和二二、二五  
資料課 複寫

0028

註

本稿は過般南方軍残務整理部に届けられた  
南方方面残留者の叫びを複写したものである  
る参考のため配布する

資料課長

0029

終戦時南方（比島及ニューギニア並北佛を除く）に在った  
陸海軍人及一般邦人約七十三萬は聯合軍コマ司令部の  
取計の上司の思ひやりで現在（昭和三十年八月末日迄）約  
十二萬を残して祖國再建を心に誓ひつゝ夫々引上港  
灣に上陸した。  
而して英軍の命令に依り作業隊として残つた十二萬  
の者は炎熱の下家族の安否をすら知らず。戦争に引  
き續き戦災復旧の作業の爲歸國一日も速かならぬと念  
じつゝ働いてゐる。

0030

噫、歸還船は何時来るか。  
或る日――

「船が来るぞうた」  
「〇月×日内地を出帆して南方へ歸還船  
が来るぞうた」  
「一日の勞務を終つて歸つた兵士等の彼地  
此地でこの様な聲が起るとつゞいて笑聲ワイウと言ふ  
聲が起る、その後は暫時「シリン」とした瞬間がまたうさ  
る。

終戦以來「何時内地へ歸るか」「内地は一体どうなつてゐる  
か」「家族は、妻は、父母は、子は何をして暮してゐるか」「こ  
れが皆の心配の種であつた。その内地へ歸る久し振り戦火  
でいたく惨めになつたと言へ、煙火の風景に接すること  
が出来ぬのだ。食糧難、住宅難を克服してゐる夫無  
き子無き父無き家族へ會へるのだ、その時が来るらし

0031

のだ。來るのだ。頭の中を走馬燈の様に色んな想ひがかけ  
めぐる。狂はしき迄に昂奮するのだ。数日たった――  
「南方地域に十萬の勞務隊が残される」英軍の指令する  
残存すべき兵力を残した人員、人名が指示されて飛び上つ  
て喜ぶがもの打しほル。「キヤジ」の夜空に淋しく南十字  
星を仰ぐもの。然かも翌日は皆打つル。勞務に出かけ  
て行くのである。

数十日経って第一次歸還者が出發した後――  
出發した連中、今頃何處を通過してゐるかたな女  
「内地は食糧欠乏してゐる。そうだから我々が大部歸つ  
たり尚困るかも知れないね。我々はこちで苦勞はしてゐるが  
無事暮らしてゐるから、この儘食糧事情が落着く迄残る  
か。ヤルにしても内地と手紙のやりとり文けでも出來て無事  
だと言ふ小事を知つたり知りせたりしたいものだ。」  
「いや、一日も

0032

早く帰って祖國再建に微力を盡さなまきや」と議論百出  
である。嘗っては戦場で「我等の受ける爆撃の爆弾が一  
發多ければ多い文内地に落ちる爆弾が一發少くなる  
のだ」と齒を食いしばって戦った兵士は祖國の食糧難を  
自からが歸國を遅くすることに依って少しでも解決  
しやうと考えても見たのだ。

然し半数の人々が去って何となく虚脱した様なギヤンゴ  
に残され假令戦争行為に依り破壊せられるもの、復旧の爲  
とは言へ異國の土地に取残され家族の安否も知らず毎日  
勞務に出て行く氣持は悲しい。  
噫々次の歸還船は何時來るか？

0033